

沖縄戦戦没者の遺骨の残る土砂を、辺野古新基地建設の埋め立てに使用しないことを求める請願署名

北九州市議会 議長 鷹木研一郎様

【請願主旨】

米軍の戦史に「ありったけの地獄を集めた」と刻まれた沖縄戦で、日米合わせて 20 万人以上が亡くなりました。戦没者の人数は、住民 94,000 人、日本軍 94,136 人、米軍 12,520 人と記されています。また、平和の礎の 24 万人を超える刻銘者のうち、福岡県出身者は 4030 人、韓国を中心とするアジアの人々は 498 人となっています。激戦地となった沖縄県南部の土砂には、沖縄のみならず、多くの人々の血が染み込んでいます。

40 年近く、沖縄各地で戦争犠牲者の遺骨を探し続けてきた、遺骨収集ボランティア「ガマファー」の具志堅隆松さんは、「壕の奥で見つかる遺骨は上半身のないものが多く、少し離れたところから出てきた上半身の骨は、どれも短く割れている。手榴弾で自害した遺骨です」「本島南部では、いまだにどこを掘っても遺骨が出てきます」「骨は白いと考えがちですが、土から掘り起こされた骨は土と同じ色をしています。そうした遺骨と石灰岩を見分けることは、とても難しい」と語ります。また、小淵恵三元首相が学生時代、占領下の沖縄でたびたび遺骨収集に参加してこられた話は、よく知られています。

そして今、沖縄戦で命を落とした戦没者の遺骨が混入した土砂が、辺野古新基地建設の埋め立てに使用されようとしています。沖縄戦で犠牲になった方々のご遺骨はもちろん、その血が染み込んだ土砂を用いることは、人道上許されません。遺骨を土砂とともに埋め立てに使ってしまうと、二度と収集する事はできません。沖縄県南部には、約 3000 柱の遺骨がまだ残ると言います。

今必要なのは、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」のもと、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施する事ではないでしょうか。以上の状況をふまえ、下記項目の実現を強く求めます。

【請願事項】

北九州市議会として、政府に対し、下記事項を内容とする意見書を提出してください。

1. 悲惨な沖縄戦の戦没者の遺骨が残る土砂を、辺野古新基地の埋め立てに使用しないこと。
2. 「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」に基づき、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施する事。

氏名	住所

【呼びかけ団体】辺野古土砂北九州(「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会)

【締め切り】第1次…9月1日(水) 第2次…9月30日(木)

【送付先】〒800-0117 北九州市門司区恒見 122-3 藤堂方「辺野古土砂北九州」

【取り扱い団体】

--